

事業評価票

84	山谷地域越年越冬対策事業 (福祉保健局生活福祉部／一般会計)	事業開始	昭和 37 年度
		事業終期	平成 31 年度

【局評価】

1	どのような経緯で事業を始めたか、何をを目指すのか
<p>○ 年末年始及び冬期は求人数が減少する傾向にあるため、就労の能力及び意思を有しながら、就労もできず、宿泊もできない生活困窮者、入院加療を要する者等に対し、労働、医療、施設援護等の施策を各関係機関のもとに計画し、実施することにより、山谷地域住民の福祉の向上と自立の促進を図る。</p>	
根拠法令等	山谷地区越年越冬対策部設置要領、山谷対策総合事業計画

2	どのように取り組み、どのような成果があったか																							
<p>○事業内容 生活援護及び医療援護 1 生活相談 2 施設援護 3 医療援護 (医療相談、巡回診療、病床確保)</p> <p>○施設援護の実施期間 越年対策：12月29日から1月4日まで (原則6泊7日) 越冬対策：1月4日から3月1日まで (1日単位)</p> <p>○越年・越冬対策の利用者数 (単位：人、件)</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th colspan="2"></th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2" style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">越年</td> <td>相談者数</td> <td>257</td> <td>209</td> <td>185</td> </tr> <tr> <td>宿泊者数</td> <td>252</td> <td>205</td> <td>179</td> </tr> <tr> <td rowspan="2" style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">越冬</td> <td>相談件数</td> <td>859</td> <td>587</td> <td>545</td> </tr> <tr> <td>宿泊延人員</td> <td>833</td> <td>568</td> <td>538</td> </tr> </tbody> </table>				25年度	26年度	27年度	越年	相談者数	257	209	185	宿泊者数	252	205	179	越冬	相談件数	859	587	545	宿泊延人員	833	568	538
		25年度	26年度	27年度																				
越年	相談者数	257	209	185																				
	宿泊者数	252	205	179																				
越冬	相談件数	859	587	545																				
	宿泊延人員	833	568	538																				

3	どのような課題や問題点があったか
<p>○ 地元区や (公財) 城北労働・福祉センターにおける日常的な生活相談等の成果により、越年越冬対策事業の利用者は年々減少しており、施設援護で必要とされる規模が変動している。</p> <p>○ 一方で、依然として、200名程度の越年相談の利用者がいる。</p>	

4	局として、事業をどうしていきたいか														
<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 25%;">拡大・充実</td> <td style="width: 25%; border: 2px solid black;">見直し・再構築</td> <td style="width: 25%;">移管・終了</td> <td style="width: 25%;">その他</td> </tr> </table>		拡大・充実	見直し・再構築	移管・終了	その他										
拡大・充実	見直し・再構築	移管・終了	その他												
<p>○ 利用者の減少に応じて施設援護の実施方法を調整し、適正化を図る。</p> <p>○ 引き続き、地元区や (公財) 城北労働・福祉センターによる巡回相談等を丁寧に行うことにより、地域生活への移行を進め、越年越冬期間に生活困窮に陥ることがないように努めることにより、越年越冬対策事業を利用せざるを得ない方々をさらに減少させる。</p>															
歳入	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 25%;">27年度決算額</td> <td style="width: 25%;">5,529 千円</td> </tr> <tr> <td>28年度予算額</td> <td>3,749 千円</td> </tr> <tr> <td>29年度見積額</td> <td>10,243 千円</td> </tr> </table>	27年度決算額	5,529 千円	28年度予算額	3,749 千円	29年度見積額	10,243 千円	歳出	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 25%;">27年度決算額</td> <td style="width: 25%;">22,666 千円</td> </tr> <tr> <td>28年度予算額</td> <td>34,699 千円</td> </tr> <tr> <td>29年度見積額</td> <td>28,804 千円</td> </tr> </table>	27年度決算額	22,666 千円	28年度予算額	34,699 千円	29年度見積額	28,804 千円
27年度決算額	5,529 千円														
28年度予算額	3,749 千円														
29年度見積額	10,243 千円														
27年度決算額	22,666 千円														
28年度予算額	34,699 千円														
29年度見積額	28,804 千円														

【財務局評価】

5	財務局として、成果や課題などについて、どう考えたか
<p>○ 年末年始及び冬季において、就労できず宿泊もできない山谷地域居住者に対する宿泊援護等の支援は必要である。</p> <p>○ 本事業における実績は年々減少しており、規模に応じた経費の見直しが必要である。</p>	

6	29年度予算で、どのように対応したか				
<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 25%;">拡大・充実</td> <td style="width: 25%; border: 2px solid black;">見直し・再構築</td> <td style="width: 25%;">移管・終了</td> <td style="width: 25%;">その他</td> </tr> </table>		拡大・充実	見直し・再構築	移管・終了	その他
拡大・充実	見直し・再構築	移管・終了	その他		
<p>○ 越冬対策宿泊援護委託を廃止するなど、利用者実績の減少を踏まえ経費を縮減していることから、見積額のとおり計上する。</p>					
歳入	29年度予算額	10,243 千円			
歳出	29年度予算額	28,804 千円			